



今号の紙面から ● 3面 新型コロナウイルス関連情報 ● 8面 まちだの未来をみんなで考えよう!

アパレルショップ勤務×カウンセラー

カメレオンカウンセラーと自らを評する村野千登勢さん。カウンセラーを軸に、ハンドメイドショップ運営、高齢者支援などを行う。モットーは、「まずは、一歩踏み出す」。

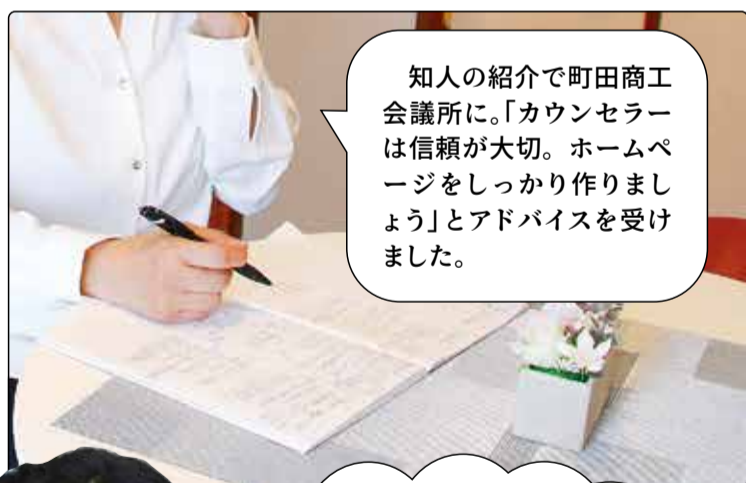


2人の息子には、「仕事はやりがいがあるもの」と伝えるほど、仕事大好き人間。ですが、ドクターストップがかかり、22年間勤務した会社を退職することに。

会社員時代、人への伝え方が評価されていたことを再認識。「言葉で人を元気にしたい」と、長年の夢であったカウンセラーになることを決意。



知人の紹介で町田商工会議所に。「カウンセラーは信頼が大切。ホームページをしっかり作りましょう」とアドバイスを受けました。



仕事では、人の良い部分に目を向ける“あるとこ探し”を大切にしています。今後は、ご高齢の方やシングルマザーの方などが、自分の得意なことを発揮できるような場所を作りたいです。



働くのいろいろなカタチ

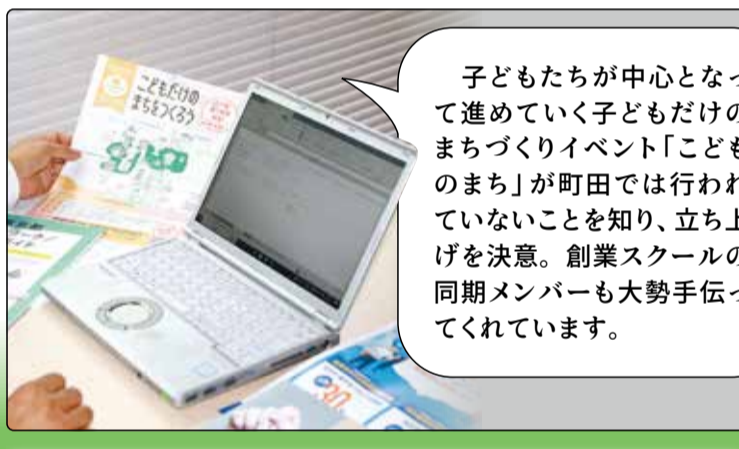
問 産業政策課
☎724・2129

WEBコンサルタント×子どもの居場所づくり

単身赴任中に、コロナ禍に見舞われ、幼い息子とも会えない状況が続く、退職を決意した熊切勝夫さん。市内で、WEBコンサルタントをする傍ら、地域みんなで子育てをする場所作りに取り組んでいる。



子どもと地域社会のつながりが希薄になると感じ、何かできないかと町田商工会議所の創業スクールに通うことに。



子どもたちが中心となって進めていく子どもだけのまちづくりイベント「こどものまち」が町田では行われていないことを知り、立ち上げを決意。創業スクールの同期メンバーも大勢手伝ってくれています。



「こどものまち」実現のため、打ち合わせを重ねています。こども実行委員のメンバーは40人。回を重ねるごとに、会議にも熱が入ります。

今後は、二つの仕事(WEB制作と子育て支援)をどちらも本業(複業)にしていきたいです。「こどものまち」の取り組みを法人化し、また子どもの起業を大人が支援する仕組み作りに取り組みます。



市の起業・創業支援体制は2面で紹介